棟方志功と東北の民藝

2021年 10月1日(金)－11月23日(火祝)

〔写真・右上より時計回りに〕善知鳥版画巻　夜訪の柵　棟方志功　紙本墨摺　1938年　22.5×31.0cm　／　蓑（伊達げら）　青森県津軽地方　胡桃・科皮・紙縒　1930年代　134.0×42.0cm　※写真は部分図　／　東北経鬼門譜　真黒童女　棟方志功　紙本墨摺　1937年　119.0×111.0cm　／　海鼠釉片口　秋田県楢岡　1920年代　24.5×31.0cm

日本民藝館
https://www.mingeikan.or.jp/

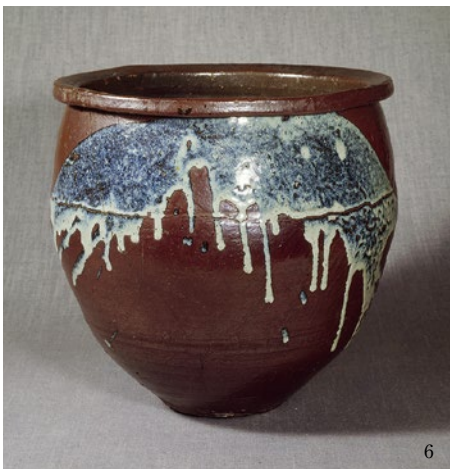
1

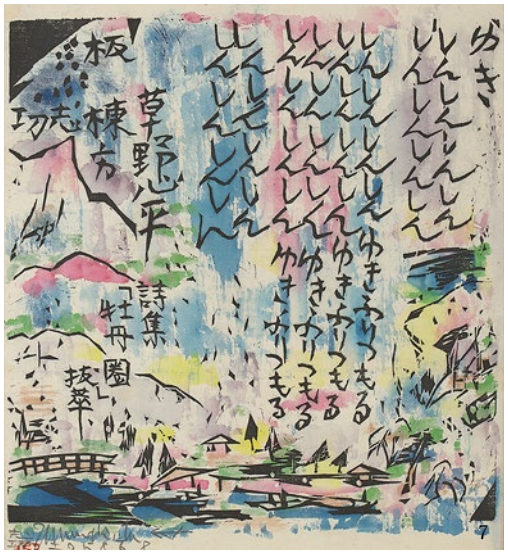
2

3

4

5


6


7

8

厳しくも豊かな自然環境を持つ東北の地。ここは昔から変わらぬ民藝の宝庫であり、日本の手仕事を考える上では実に大切な場所であります。柳宗悦（1889-1961）は1920年代後半から40年代の初めにかけて精力的に東北各地を巡り、民藝品の調査と蒐集を実施しました。そして、東北の手仕事文化の豊かさに感嘆し、日本民藝館において東北の民藝を紹介する展覧会を度々開催していったのです。本展では、柳らが東北各地で蒐集した民窯の陶器、蓑・けら・背中当などの編組品、こぎん・菱刺し・被衣（かつぎ）などの染織品、樺細工や漆工品などを展示し、東北が豊かな文化的創造力を育む地であることを改めて紹介したいと思います。

さて、青森に生まれた版画家の棟方志功（1903-1975）は、東北の豊かな自然風土から美の滋養を汲み取り、生命感にあふれる作品の数々を世に送りました。なかでも東北への想いが込められた作品といえば、「東北経鬼門譜」（1937年）が挙げられます。これは版木120枚を使い制作されたもので、6曲1双の屏風を広げると、実にその長さは10メートルにもなる戦前期最大の版画作品です。棟方はこの作品に、東北という日本の「鬼門」にあたる貧寒の故郷を想い、仏の力を借りてこの地を幸あらしめたいとの切なる願いを込めたのです。また、郷里青森への想いを込めた作品に「善知鳥版画巻」（1938年）があります。これは謡曲「善知鳥」を題材にしたもので、愛情深い善知鳥という海鳥の親子の別離の悲しさや、生活のための殺生とはいえ、その罪の報いで亡者となった猟師の苦しみを、故郷への思いと重ね合わせながら板に彫り込んでいったのでした。

棟方にとっては、これらの作品そのものが東北への「祈り」でもありました。東日本大震災から十年。未だその災禍が癒えない東北の地に、棟方が作品に託した鎮魂への祈りと再生への想いが届くよう、心から願ってやみません。

1. 漆絵鶴丸文椀　浄法寺　江戸時代　18世紀　9.1×13.8㎝／2. 背負籠（こだし）　山形県　1940年頃　32.9×43.0×11.2㎝／3. こぎん衣裳（部分）　青森県津軽地方　19世紀後半　丈140.0㎝／4. 背中当（ばんどり）　山形県庄内地方　1939年　78.0×43.0㎝／5. 蔵戸錠前　秋田県大館　1934年頃　41.0×37.5㎝／6. 鉄釉海鼠流水甕　宮城県堤　19世紀　高46.0㎝／7. 板画「雪しんしんの柵」　棟方志功　1958年　41.0×32.0㎝／8. 倭画「岩木山」　棟方志功　1950年代　44.0×53.0㎝

□10:00-17:00（入館は16:30まで）　□月曜休館（祝日の場合は開館し、翌日休館）　□一般1,200円　大高生700円　中小生200円　□西館公開日（旧柳宗悦邸）・会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜（開館時間10:00-16:30、入館は16:00まで）※変更が生じる場合がございます　□〒153-0041　東京都目黒区駒場4-3-33　□℡.03-3467-4527　□京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

https://www.mingeikan.or.jp/

日本民藝館